

「聖なる怪物たち」

第1場：種は撒かれた

アクリム：

いちばん辛かったのは、
ごく幼い時に種が撒かれたことだ
The hardest thing was that,
Quite early on, a seed was planted

その種は彼女を導く声になった。
And that seed was her voice

彼女は直感的に見抜いた。
クラシック・バレエを誠実に続けるためには、
答えが必要だ。
And her instinct was telling her
That in order to be honest in classical ballet
She needed answers

しかし、彼女は理解した。
なぜ、という問いが許されても、
答えは戻ってこない。
But she realised that even if the question 'why' was allowed
It didn't trigger an answer

彼女には二つの選択肢があった。
So from there you had two choices.

一つ目は、黙って従順に言われた通りにする。
彼女にとって、これは問題外。
One, do quietly and obediently as you were told
But for her this was not an option

二つ目は、自分で答えを見つけ出すこと。
Or secondly you just go and search for your own answers

「聖なる怪物たち」

第2場：クリシュナ神の髪 パート1

アクリム：

クリシュナの姿には、はっきりしたイメージがある。

ほとんどの絵画で、肌は青く描かれる。

Krishna is identified by certain features

In most of the paintings you see him in blue colour

青黒く、美しいクリシュナ。

長く波打つ髪。ヒゲはない。

He is dark and beautiful

He has long curly hair, no beard

大人になった私は、困った事態に陥った。

髪が後退し始めたのだ。

So for me like, growing up, I remember

Being in a situation where I felt quite uncomfortable

Because I was losing my hair

真っ先に考えたのは…

So the first thing I thought ...

インドの古典舞踊をどうやって踊ればいいのか。

どうやって、クリシュナの本質を演じればいいのか。

私はクリシュナのように見えないのに。

Was how, now, do I do classical, Indian dance

How do I portray the essence of Krishna

Without looking like Krishna

鏡にうつった自分を見ながら考えた。

もし、あの黒いヘアスプレーを買ったら、

安っぽいテレビCMの言いなりじゃないか。

部分カツラを買っても同じこと。

And I remember looking at myself in a mirror

And you know, when you are convinced by those cheap adverts on TV...

If you get this black hair spray

And when you have a bald patch, you can cover it

テレビCMを見ながら考えた。

And so I remember looking at this TV-advert

これを買えば大丈夫。

私はカタックを踊らなくてはいけないのだから。

私にもカタックが踊れるんだって、

人々を納得させなくてはいけないのだから。

And going "okay I am going to get this

Because I need to do kathak

And I need to convince people

That I can do kathak"

さもないと、古典舞踊の世界から、

追放されるような気がした。

I felt as if I was going to be thrown out

Of the classical world

「聖なる怪物たち」

第3場：クリシュナの髪 パート2

アクリム：

こんなジレンマにも陥った。
初めて役柄を演じるようになった。
And so I remember being in a dilemma..
It was the first time
I was starting to play a character

選択肢があるのは、私にとって新鮮なことだった。
何事も選択がつきものだ。
ここでは、二者択一だった。
And for me there is a difference
In the sense that you have a choice
Everything is about choices
And for me there were two choices

一つ目のやり方は、自分をクリシュナに見立てて演じること。
The choice was do I try to portray myself as Krishna

でも、どうすればいい？
あの安っぽいヘアスプレーを使って、
髪が長いふりをするのか。
これが一つ目のやり方。
How do you do that?
I pretend to have long hair
using this bloody cheap hair spray,
That was one way...

二つ目のやり方は、
私の深層にクリシュナを見つけ出して、クリシュナを演じること。
And the other choice was
Could I play Krishna
By finding Krishna deep within me

人々が思い描くクリシュナのイメージに近づくのか。
それとも、自分の中のクリシュナに近づくのか。
So do I go towards the image
That people imagine Krishna to be
Or do I go into myself to find Krishna

何年も葛藤した末に理解した。
人々が思い描く通りの美しいイメージにはなれっこない。
あの伝統的なクリシュナの姿。
And after struggling for so many years
and realising I could never be the beautiful image that people have
The most classical image of Krishna

私は怪物になってしまいそうに感じた。
そして、そうすることにした。
I felt I was going to be a monster
So I decided to go that way

「**聖**なる怪物たち」

正直に言おう。

怪物になる、それはまさに、
クリシュナの本質ではないか。

But to be honest with you
I think, what I consider to be a monster
Is the very essence of what actually Krishna is about

クリシュナが私の中にいる。

怪物が私の中にいる。

So for me Krishna was within, the monster within me

シルヴィ :

アクラム、あなたは美しくて髪が薄いクリシュナだわ。

Akram, I think you are a beautiful, bald Krishna

アクラム :

ありがとう、シルヴィ、君もだね。

いや、君は禿げていないか。

でも美しい。そして背が高い。

Thank you, Sylvie, you too
I mean not that you are bald
But you are beautiful too, and very tall

「聖なる怪物たち」

第4場：サリーの物語

シルヴィ：

イタリア語を勉強したかったので、
いちばん良い方法を探した。

I wanted to learn Italian.

And I looked to find the best way to do it.

色々、試したけれど、
どれも、うまくいかない。

I tried many things

But it didn't work

こんな方法を思いついた。

子供っぽいやり方。

So I had to find another way

Which was the way of the kid?

ミラノの小さな図書館で、
子供向けの小さな本をふと手にした。

I ended up in this small library in Milano

And I found a little book, a kids book

チャーリー・ブラウンの本。

試しに買って見た。

そして、気に入った…

And it was Charlie Brown

I just bought one to try it

And I loved it ...

可愛らしくて、気が利いていた。

日常語で書かれているので、初心者にはとても便利。

It was funny and intelligent

And it was everyday language, very useful when you want to learn..

登場人物がとても面白い。

The characters were great

私が気に入ったのは、ほんの1、2歳の小さな女の子。

彼女の名前はサリー…

And there was this little girl

Only one, two years old, which I liked very much

She was called Sally..

英語のレッスンを受けていた時に、

私もそう呼ばれていた。

シルヴィではなく、サリー。

That's what they used to call me

When I was taking English classes

Instead of Sylvie they called me Sally

「聖なる怪物たち」

アクラム :

僕がなんて呼ばれていたか、知ってる？
Do you know how they called me ?

シルヴィ :

シュブー、だったかしら？
Shuboh ?

アクラム :

イエス。意味は知ってる？
Yes, do you know what it means ?

シルヴィ :

前に教わったけれど、思い出せない。
You told me but I don't remember

アクラム :

美しい、という意味だよ。
It means beautiful...

シルヴィ :

そうなの。じゃ、話を続けるわ。
Anyway.

サリーは縄跳びを手にしている。
縄跳びをしながら、飛びまわる。
..so you see Sally with a rope
She is jumping around like that...skipping,

とても楽しそう。
髪はこんな風に揺れる。満面の笑みを浮かべて。
And she looked very happy,
With hair like that and with a big smile,

すると彼女は、突然、立ち止まって、
泣き始めた。泣き続けた。
And then suddenly she stops
And she cries and cries

チャーリー・ブラウンがやってきて、声をかけた。
「どうしたの、サリー、何があったの？」
And Charlie Brown comes to her and asks
'What happened, Sally, what happened to you ?'

彼女は答えた。「何でもないわ。
でも、突然、むなしくなったの」
and she answers : 'Well, I was fine, you know
but suddenly everything became so futile'

「聖なる怪物たち」

私はつぶやいた。私も同じように感じることもある。

なぜそう感じるのか、私にはわからない。

いいえ、わかっているのかもしれない。

And when I read that, I said I sometimes feel like that

So why I feel like that, I don't know

But I guess I know, because what I do

私には好きなことがある。とても素敵なことよ。

でも、それは、ほんとうに大切なこと？

必要なこと？

It is fine, and I love doing it

But is it really important?

Is it really necessary?

楽しいからといって、

踊りに没頭していいの？

それでいいの？ そうしたいの？

With what there is around you

Can you just dance and be happy to dance?

Can you do that ?

そして、こう考えることになる。これは、バランスの問題。

And then you think: it's the story of the balance,

正しいか、間違いか。

どちらかを選択する。

The right and the wrong, and which side you choose,

だとすれば、私がやっていることは間違いではないのだから、ネガティブではない。

ネガティブではないのなら、ポジティブ。

そうなんだわ！

So, what I do is not wrong, it is not negative

So if it is not negative, it is positive.

Voilà.

(以下の台詞は、イタリア語の即興。)

「聖なる怪物たち」

第6景：émerveillé／エマーヴェイユ（驚嘆）

シルヴィ：

ねえ、アクラム、私が好きなのは、
発見すること。
私はこんな能力を今も持っているのよ。
Akram, you know, what I like?
is that I discover
That I still have the ability to be...

Émerveillé（エマーヴェイユ）...

ポジティブに心を動かされること。
To be impressed in a positive way

アクラム：

インスピレーション？
Inspired?

シルヴィ：

インスピレーションだけではないわ。
No, it is not only inspired,

何かがほんとうに美しい時、
その美しさを認識できること。
It is just being able to realise
When something is simply beautiful

それが、まさに、エマーヴェイユ。
And being really ... émerveillé

アクラムはこの言葉を知らないのね。
you don't know that word

アクラム：

エキサイト？
excited ?

シルヴィ：

ノー。ずっと欲しがっていたものを、
子供にあげたとする。
大したものじゃなくていいの。縄跳びとか犬とか…
No, like a kid, when you give him,
Something he wanted for a long time
Even something simple, like a skipping rope or a dog....

ノー、もう少し良いもの。
男の子が目の前のクリスマス・ツリーに目を奪われている…彼はエマーヴェイユなのよ。
No, even better: the eyes of a kid in front of a Christmas Tree...he is émerveillé

「**聖**なる怪物たち」

私はいまでもあの感激を感じられる。
こういう感激をいつまでも忘れませんように。
And I can still feel that
And I hope that I am going to keep these big emotions

目をうるませたり、輝かせたりするものが、
まだ沢山あるのだから。
And that there are still a lot of things
That can make your eyes watery and shining

同時に…
At the same time…

無感動なのは、嫌。
エマーヴェイユでいたい。
私が言っていること、分かる？
I don't want to be blasé
I want to be émerveillé
Do you know what I mean?

アクラム：

ノー。
クリスマス・ツリーの例はわからないよ。
私はイスラム教徒として育てられたから。
NO.
And by the way didn't get the Christmas tree story, because I was brought up muslim....

.....

つまり、君はその言葉をどう呼ぶの？
How do you say it by the way?

翻訳：上野房子